

2009年3月期第3四半期決算(08年4月～12月累計) プレゼンテーション資料

2009年1月
大阪ガス株式会社

I. 08年4月-12月決算(累計)の概要と 通期見通しについて

インターネットを通じて定期的に経営情報を発信しています。下記のURLで、決算短信、アニュアルレポート、説明会資料等を閲覧・ダウンロードすることが可能です。<http://www.osakagas.co.jp/ir/>

「見通し」に関する注意事項 :このプレゼンテーションには、将来の業績に関する見通し、計画、戦略などが含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。

ガス販売量に関する注記 :全て、基準熱量を45MJ/m3として、表記しています。

連結ガス販売量に関する注記 :名張近鉄ガス・篠山都市ガス・豊岡エネルギーは12月決算です。

08年4月-12月ガス販売状況

45MJ/m3		08.4-12 実績	07.4-12 実績	前期 との差	前期比 (%)
個 別	期末取付メーター(千件)	6,918	6,852	+66	+1.0
	新設工事件数(千件)	73	75	-2	--
	家庭用1戸当り販売量(m3/月)	25.7	26.3	-0.5	--
	家庭用	1,338	1,360	-22	-1.6
	商公医療用	1,173	1,220	-47	-3.9
	工業用	3,242	3,311	-69	-2.1
	業務用計	4,415	4,531	-116	-2.6
	他ガス事業者向け	326	332	-6	-1.7
	(うち大口供給)	(3,780)	(3,806)	(-26)	(-0.7)
	ガス販売量合計(百万m3)	6,079	6,222	-144	-2.3
連結ガス販売量	6,106	6,246	-140	-2.2	

まずは、第3四半期まで(4-12月累計)の個別ガス販売の状況について、ご説明します。

この期間の平均気温、平均水温は前年同期と比較して若干低めに推移しましたが、4月の気温および7月の水温が前年同月に比べて高く推移したこと等から、家庭用ガス販売量は前年同期を下回りました。

工業用については、需要開発による販売量の増加があったものの、機械・金属・化学業種を中心とした、景気減速の影響と推測されるお客さま設備の稼働の減少などにより、販売量は前年同期比で減少しました。

商・公・医療用については、8月および9月の気温が前年同月と比べて低かった影響や、お客さまの省エネルギー推進などによるお客さま設備の稼働の減少により、販売量は前年同期比で減少しました。

08年4-12月実績 I

連結:億円	08.4-12 実績	07.4-12 実績	前期差	前期比 (%)
売上高	9,306	8,407	+898	+10.7%
営業利益	38	531	-493	-92.7%
経常利益	56	563	-507	-90.0%
当期純利益	7	336	-329	-97.8%
連結ガス販売量(百万m3)	6,106	6,246	-140	
為替レート(円/\$)	102.8	117.3	-14.4	
原油価格(\$/bbl)	105.1	72.8	+32.3	
連結子会社数	137	130	+7	

原油価格は11月、12月速報値による平均

(次ページで内容説明します。)

08年4-12月決算のポイント

- 前年同期との比較
 - 増収: 原料費調整制度によってガスの販売単価が前年同期と比べて高めに推移したこと、連結子会社の売上高が増加したこと等による。
 - 営業減益: 年度前半の原油価格の高騰を主な要因として、大阪ガス個別で原料費が増加したこと等による。個別のスライド差損は、前年同期比で約340億円増加。
- 10月以降の状況
 - ガス販売量は、景気減速による工業用顧客での稼働減等により、前年同期実績を下回る傾向
 - 10-12月のガス原材料費は、原油安・円高の影響によって、10月発表の見通しでの想定を下回る水準で推移
 - LNG契約の更改交渉は、順次進捗
 - 連結子会社は、第二四半期決算から引き続いて、好調を維持

第3四半期の実績について、前年同期との比較でご説明します。

売上高は、大阪ガス個別で原料費調整制度によって都市ガスの販売単価が前年同期に比べて高めに推移したことや、連結子会社の売上が増加したことなどにより、前年同期に比べて898億円増(+10.7%)の9,306億円となりました。

営業利益は、大阪ガス個別で原料費が上昇し前年同期に比べて減益となった影響により、前年同期に比べて493億円減(92.7%)の38億円となりました。大阪ガス個別の原料費調整制度によるスライド差損は、前年同期比で約340億円増加しました。

第2四半期決算以降の状況変化等については、ガス販売量では、工業用のお客さまを中心に景気減速による稼働減少の影響を受けています。10-12月のガス販売量は前年同期を下回る実績となりました。

一方、ガス原材料費につきましては、原油安・円高の影響を受け、対前年同期でも10月発表の見通しに対しても、減少しています。また、LNG契約の更改交渉につきましては、順次進捗をしています。

連結子会社の業績については、第2四半期決算でも順調に推移しているとご説明しましたが、10-12月に関しても、堅調に推移しています。

09.3期ガス販売見通し

- 4-12月累計の販売実績と最近の気温推移・お客さまの稼働状況等を考慮して、個別ガス販売量合計では10月時点の見通しから、248百万m3下方修正。

		FY09.3/E		FY08.3/R	前期 との差	前期比 (%)
		今回	10月発表			
45MJ/m ³						
個 別	期末取付メーター(千件)	6,932	6,932	6,881	+51	+0.7%
	新設工事件数(千件)	128	128	120	+8	--
	家庭用1戸当り販売量(m ³ /月)	33.0	33.0	33.5	-0.4	-1.3%
	家庭用	2,272	2,292	2,310	-38	-1.7%
	商公医療用	1,577	1,583	1,657	-81	-4.8%
	工業用	4,208	4,406	4,458	-249	-5.6%
	業務用計	5,785	5,989	6,115	-330	-5.4%
	他ガス事業者向け	443	467	462	-19	-4.1%
	(うち大口供給)	(4,909)	(5,115)	(5,130)	(-220)	(-4.3%)
ガス販売量合計(百万m ³)		8,500	8,748	8,887	-387	-4.4%
連結ガス販売量		8,535	8,784	8,917	-381	-4.3%

以上で、第3四半期の決算概要のご説明を終わり、続いて通期見通しについて、ご説明します。

ガス販売量については、4-12月累計の販売実績と最近の気温推移・お客さまの稼働状況等を考慮して、個別ガス販売量合計では10月時点の見通しから、248百万m³下方修正としました。主には工業用での減少を想定しています。

09.3期見通しの考え方

- 09年1-3月の前提諸元
 - 原油価格は、10月発表の見通し 100\$/bblから55\$に変更。
 - 為替レートは、10月発表の見通し105円/\$から95円に変更。
- 個別： 従来の見通しから減収・増益修正
 - ガス販売量は、足元の実績・景気動向等を踏まえて、10月発表の見通しから約248百万m³の減少を織り込み。ガス販売量の減少により、約220億円の減収、約60億円の減益影響。
 - 原油安・円高による原材料費の減少(増益)を約410億円織込み。
- 連結子会社： 全体では減収・利益維持の見通し
 - LPガス関連事業での販売単価下落等により、子会社全体で約440億円の減収を織込み。
 - 4-12月の業績は好調に推移している一方、今後の景気減速影響の発生を考慮して、連結子会社合計の通期営業利益は従来の見通しの通り。



10月発表の見通しと比較して、連結売上高は690億円の減収、営業利益で350億円の増益を新たに織り込み。

今回の通期見通しにあたっては、2009年1-3月の前提諸元として原油価格55\$/bbl、為替レート95円/\$としました。以下、10月に発表しました2009年3月期の見通しから、今回発表の見通しへの変更に関する考え方・主なポイントをご説明します。

大阪ガス個別では、前のページでご説明しましたようにガス販売量の見通しを下方修正したことで、新たに約220億円の減収・約60億円の減益を織込みました。

原油価格・為替レートの足元の動向と先行き見通しの修正に伴って、ガス原材料費については、約410億円の費用減少を新たに織込みました。

連結子会社では、売上高では、LPガス関連事業での販売単価が下落している状況を織り込んだことを中心に、約440億円の減収を織込みました。

営業利益では、12月までの実績は全般に好調に推移しているものの、今後は景気減速の影響を発生する可能性があることを考慮して、各連結子会社ごとに状況を見直しました。その結果、それぞれの会社ごとには増益・減益の変更があるものの、連結子会社全体では、従来の見通しの通りの利益水準を維持する見通しとしています。

以上から、10月発表の見通しと比較して、今回は、連結売上高では690億円の減収・営業利益では350億円の増益の修正見通しとしました。

09.3期見通し I

連結、単位：億円、 ()内は連単倍率	FY09.3/E		FY08.3/R	差異		
	今回	10月発表		10月	前期	
売上高	(1.36) 13,350	(1.39) 14,040	(1.41) 12,381	-690	+968	
営業利益	(1.93) 520	(--) 170	(1.77) 756	+350	-236	
経常利益	(1.91) 515	(--) 185	(1.51) 758	+330	-243	
当期純利益	(1.65) 280	(--) 70	(1.23) 402	+210	-122	
SVA	-70	-280	125	+210	-195	
連結ガス販売量	百万m3	8,535	8,784	8,917	-249	-382
為替レート	円/\$	100.9	105.6	114.3	-4.7	-13.4
原油価格	\$/bbl	92.5	109.8	78.5	-17.3	+14.0
連結子会社数		137	137	133	0	+4

SVA(Shareholders' value added)=NOPAT - 投下資本 × WACC

Design Your Energy 大阪ガス
OSAKA GAS

前ページの考え方に沿って、今回発表しました業績見通しはこの表の通りです。

大阪ガス個別については、従来は営業損失・経常損失の見通しでしたが、今回の修正に伴って黒字化を想定しています。

以上で、第3四半期決算の概要説明を終了します。

II. 参考資料

ガス販売量の前年差異分析

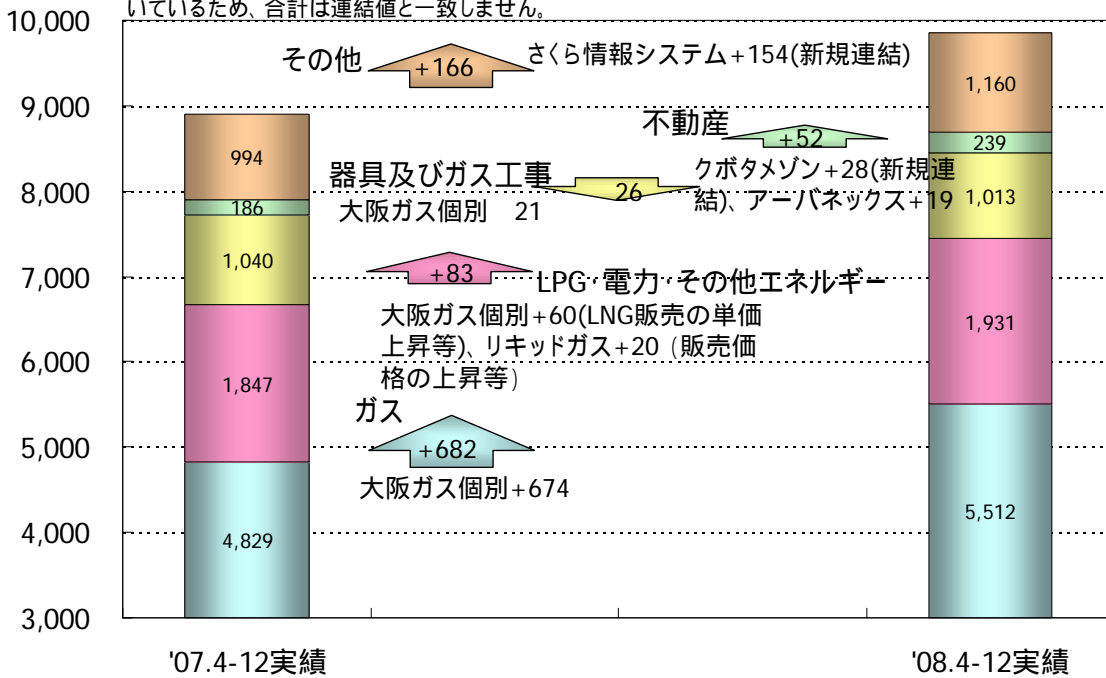
	家庭用	商公医療用	工業用
調定件数	+0.4%	--	--
検針日数影響	+0.1%	} -1.7%	--
気温影響	-1.3%		--
稼働増減他	} -0.9%	-4.9%	-5.7%
需要開発		+2.9%	+3.6%
合計	-1.6%	-3.8%	-2.1%

期中での概算につき、家庭用の需要開発は、稼働増減他を含む。

- 商公医療用
 - 商業用大型物件の獲得等、新規需要開発は堅調。一方で、お客さまへの省エネ提案による販売量減や景気減速による稼働減も影響。
- 工業用
 - 大型の燃料転換物件の運転開始等、新規需要開発の寄与がある反面、景気減速に伴うお客さまでの稼働減等が影響。

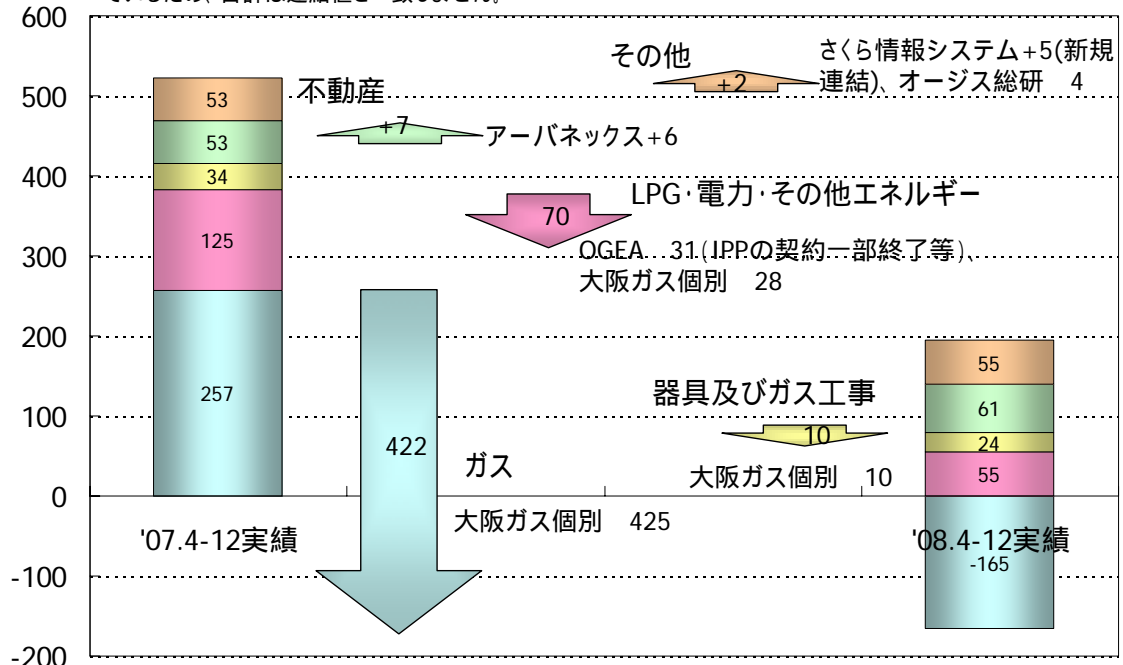
セグメント別売上高

(億円) 図中の矢印の長さは、イメージであり、数値を正確に反映したものではありません。「消去又は全社」を除いているため、合計は連結値と一致しません。



セグメント別営業利益

(億円) 図中の矢印の長さは、イメージであり、数値を正確に反映したものではありません。「消去又は全社」を除いているため、合計は連結値と一致しません。



OGEA: 大阪ガスエナジーアメリカ (IPP投資会社)

08年4-12月実績 II

連結:億円	08.12末	08.3末	差異
総資産	15,253	14,679	+574
自己資本	5,802	6,485	-683
有利子負債	6,866	5,664	+1,202

	08.4-12	07.4-12	差異
設備投資	710	753	-42
減価償却費	637	703	-66
フリーキャッシュフロー	-393	-136	-257

FCF=営業活動によるキャッシュフロー-(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)-設備投資による支出。

09.3期見通し II

(連結) 億円、人	FY09.3/E	FY08.3/R	差異
総資産	16,135	14,679	+1,455
自己資本	6,606	6,485	+120
有利子負債	7,306	5,664	+1,641
設備投資	1,156	1,110	+46
減価償却費	846	952	-106
フリーキャッシュフロー	-538	512	-1,050
在籍人員	19,018	16,682	+2,336
ROA	1.8%	2.8%	-1.0%
ROE	4.3%	6.1%	-1.8%
自己資本比率	40.9%	44.2%	-3.3%
EPS (円/株)	13.0	18.3	-5.3
BPS (円/株)	306.5	300.8	-5.7

ROA,ROEの分子は共に当期純利益で、分母は期首・期末平均値。自己資本比率は期末値、EPSの分母は期首・期末平均。EPSの計算にあたって、考慮必要な潜在株式はありません。在籍人員は、嘱託を含み出向を除く(有価証券報告書と一致)。FCF=営業活動によるキャッシュフロー-(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)-設備投資による支出。

年度見通しに対するリスク要因

- 気温・水温
 - 気・水温1度の変化に対して、家庭用ガス販売量は、春秋期約5%・夏期約6%・冬期約4%変動する可能性がある。
- 原油価格
 - LNG価格は原油価格にリンクするために、原油価格1\$/bblの変化に対して、原材料費は年間28億円変動する可能性がある。
- 為替レート
 - LNG価格は米ドル・円の為替レートにリンクするために、為替レート1円/\$の変化に対して、原材料費は年間35億円変動する可能性がある。
- 原料費
 - 原料費調整制度によって、中長期的には原料費の変動はガス料金に転嫁されるが、反映までのタイムラグや原料調達先の構成によって、業績に影響を与える可能性がある。
 - LNG調達先との契約更改・価格交渉の結果、原料費の精算が発生する可能性がある。
- 金利
 - 金利1%の変動に対して、連結営業外費用が年間9億円変動する可能性がある。

09.3期ガス販売見通しの推移

45MJ/m³

発表月日	3/31	7/29	9/29	10/31	1/30
期末取付メーター(千件)	6,932	=>	=>	=>	=>
新設工事件数(千件)	128	=>	=>	=>	=>
家庭用1戸当り販売量(m ³ /月)	33.8	33.3	--	33.0	=>
個別					
家庭用	2,346	2,316	2,291	2,292	2,272
商公医療用	1,617	1,602	1,584	1,583	1,577
工業用	4,503	4,490	4,398	4,406	4,208
業務用計	6,120	6,092	5,982	5,989	5,785
他ガス事業者向け	479	473	465	467	443
(うち大口供給)	5,223	5,206	5,110	5,115	4,909
ガス販売量合計(百万m ³)	8,944	8,881	8,739	8,748	8,500
連結ガス販売量	8,978	8,916	8,775	8,784	8,535

09.3期業績予想の推移

連結、発表月日	3/31	7/29	9/29	10/31	1/30
売上高(億円)	13,730	14,220	14,130	14,040	13,350
営業利益(億円)	700	220	155	170	520
経常利益(億円)	700	245	190	185	515
当期純利益(億円)	405	110	80	70	280
連結ガス販売量(百万m ³)	8,978	8,916	8,775	8,784	8,535
為替レート(円/\$)	105	104.9	108	105.6	100.9
原油価格(\$/bbl)	90	121.3	117	109.8	92.5